

## 群馬医療福祉大学

## 2023 「学習状況に関する調査」「学生満足度調査」 結果報告

## 【本調査報告書】

全学 学生委員会・IR室

## I 調査概要

## (1) 調査の目的

大学における学生の生活実態や満足感を把握するとともに、それらを左右する要因や教育の効果を検証し、大学生活や教学などに関する改善策の提案を目的とした二つのアンケートを実施します。一つは、「学習状況に関する調査」です。このアンケートを通じて、私たちは学生の大学及び大学以外での学習の実態、さらに自立的な学習を進める上での困難をとらえ、今後の授業を改善し、学生の自立的な学習を進めるための資料として活用します。もう一つは、「在学生満足度調査」です。学生の皆さんの大学への率直な意見を伺い、魅力ある大学・短大となるための改善・改革に取り組む基礎資料とします。

## (2) 調査の方法

※別紙「「学生満足度調査等」実施について」に示した調査手順により、Google フォームにて作成した調査票に回答する。

## 1) 設問の構成 全43問

- A 「学習状況に関する調査」関係 設問【1】～【28】
- \*あなた自身について 設問【1】～【9】 \*学生生活について 設問【10】～【16】
  - \*受講している授業について 設問【17】～【27】 \*現在の状況や考え方について 設問【28】
- B 「在学生満足度調査」 設問【1】～【15】
- \*入学前の気持ちと本学の認知について 設問【1】～【4】 \*本学の教育について 設問【5】～【9】
  - \*本学で身についたことや身につけたいこと 設問【10】～【15】

## 2) 実施機関

全学学生委員会が主体となり、昨年度まで実施したアンケート結果を踏まえ、学習状況を深化した調査をおこなう。

## 3) 実施時期

- ・前橋キャンパス（社会福祉学部・医療技術学部・短期大学部）・藤岡キャンパス（看護学部）・本町キャンパス（リハビリテーション学部）
- 2022（令和4年度）年度 基礎演習・専門演習時

## 4) 調査対象 全キャンパス・全学年の在籍者

## 5) 回収数・回収率

所属	在籍者数	回収数	回収率
社会福祉学部	283	227	80.2
看護学部	347	184	53.0
リハビリテーション学部	297	225	75.8
医療技術学部	125	121	96.8
医療福祉学科	82	29	35.4
合計	1134	786	69.3

### (3) 調査結果の報告について

- 1) 各キャンパス学生委員会にてアンケート集約
- 2) 令和5年4月3日(月)から社会福祉学部で集約・分析手続き作業開始
- 3) 定例学生委員会にて進捗状況報告

## II 調査結果のまとめと考察

### 調査結果のまとめの方向性

〔ねらい〕 本調査は、学生生活や学習状況、大学への関わり方などを総合的に問う本格的な調査であり、全学生に実施した全数調査である。総合的に満足度を把握することで、大学教育および大学運営上、どのような点に改善の狙いを定めたらいかがを確認することが大きな目的であった。

本年度(令和4年度)の調査は前年度までの質問項目と同一であり、今後の比較検討するための基盤として本学の特徴をつかむために実施する。また、他大学との比較を可能とする質問を用意し、内容も多岐にわたるものとした。いくつかの質問への回答から、本学の課題やよさが浮かび上がる内容になっている。本報告においては、第1部「学習状況に関する調査」、第2部を「在学生満足度調査」とし、特に特徴的な点をピックアップし、改善につながるポイントを提示する。

### 第1部「学習状況等に関する調査」関係

**課題1)〔初年次教育の充実〕 勉強への取り組みに消極的な学生が3割近く存在する。初年次教育を充実させ、学習習慣を確立するための学習スキルを身につけ、主体性のある学習態度の育成を図っていく必要がある。**

〔問1〕アンケートに答えた学生の所属は大学96%、短大4%であり、〔問2〕所属学部(学科)は社会福祉29%、看護23%、リハビリ29%、医療技術15%、短大4%となっている。〔問4〕入学形態は一般入試が19%であるのに対し、地域推薦枠は4%、AO入試(高大連携)は22%、AO入試(課題チャレンジ)は7%、指定校推薦が35%となっている。昨年度の入試形態と比較して、変化が小さい。今後も高大連携によるAO入試を積極的に推進する必要がある。〔問6〕高校3年生の時の1日の勉強時間は「4時間以上」11%に対し、「1時間程度以下」50%と半数である。〔問7〕中学3年生の時の成績は「中の上以上」39%に対して、「中の下以下」29%存在している状況にある。〔問8〕中学、高校時代に将来について「かなり考えた者」25%と少なかったが、〔問9〕大学に入ってから「将来就きたい職業が明確にある」とした者が52%、「ある程度ある」を含めると91%に達し、大学へ目的を持って入る者、もしくは入ってから決める者が多数を占めている。〔問10〕しかし、学生生活の過ごし方を見ると「勉強・研究第一」23%、「資格取得第一」は7%程度と低迷しており、「趣味や豊かな人間関係・交友関係を望む」ものは合わせて30%、「何事もほどほど」が29%となっている。〔問11〕次に学生生活の充実度は「充実・まあまあ充実」が合わせて87%と高い比率を占めており、「あまり充実していない・充実していない」と答えた者が13%存在する。〔問12〕大学生としての勉強への取り組みは「よくしている」「まあまあしている」を合わせると71%となっているが、「あまりしていない」と「ほとんどしていない」も29%となっている。〔問13〕その理由としては「アルバイトが忙しい」「自分の目標が不明確」「授業内容が理解できない」者に加え、「なんとなく」が多数存在する。

**課題2)〔課外活動に対する対応等〕 サークル・委員会活動、ボランティア活動を全く行っていない者が過半数を超えている。課外活動支援を強化していくことは、学生が適切に課外活動に取り組んでいくために重要である。**

〔問14〕なお、「自分に自信を持って行動できているか」の問いには71%がそれなりにできていると自己評価している。〔問15〕(1)次に、授業に費やす時間については週に21時間以上が最も多く、次に16~20時間が多い。(2)予習復習に充てる時間は5時間以下が多数を占めている。(3)また、授業に関係ない自主的な勉強は約半数程度の者が2時間以下と少ない状況にある。(a)さらには、資格試験対策としての講座への参加は1時間未満が約65%程度、自主的な勉強についても約半数が2時間以下である。(b)次に、教養関係の本を読む時間が「1時間未満」88%、(4)新聞を読む時間が1時間未満の者が97%と大多数となっている。(6・7)サークルと委員会活動への参加は週に「全くなし」がそれぞれ69%、69%と過半数を占めている。(8)就職活動も「全くなし」75%。(9)アルバイトは「全くなし」30%「1週間に6時間以上」46%「21時間以上」5%となっている。(10)ボランティア活動も「3時間以上」11%、「全くなし」59%となっており、前年度と比較してボランティア活動の時間が少し増加したが、まったく活動をしていない人が過半数を超えている。〔問16〕1カ月の読書数は「0冊」63%、「2冊以上」13%であり、学生の読書離れが顕著な傾向にある。

**課題3)〔学習サポート体制の強化〕 勉強に関する困難さを感じて、戸惑っていたり、乗り切するための意欲が欠如している学生が多い。入学から卒業まで一貫して学習サポートする体制の強化が求められる。**

[問17]授業に対する態度については、「熱心」「まあまあ熱心」は85%となっているが、一方で「熱心ではない」「全く熱心でない」が15%となっている。[問18]また、授業に対する満足度も「満足」が86%で「不満足」が14%となっている。[問19]さらに、授業の理解度について6割程度以上理解している者は80%となっており、6割未満の理解者も20%となっている。[問20]次に、授業内容に関することでは、話し合いなどを採り入れているのが86%と教員が工夫している面が見られる。[問21]反面、授業中の私語・携帯電話の使用・居眠りが42%ある。[問22・23]また、宿題の必要性についても賛成は20%とあまりであり、賛成しない者は39%となっている。なお、今のままでも十分に多いと感じている者も34%いる。[問24・25]次に、勉強に関する困難さを感じている者が73%を占め、なかでも専門科目について29%が困難と感じている。[問26]また、困難さの要因としては「何をやったらよいか分からない」「高校までの基礎知識が足りない」「意欲が湧かない」「宿題・課題が多すぎる」などあげており、[問27]その乗り切り法として「学科の先輩や友人に尋ねる」ことで解決している。

**課題4)〔学生の社会情勢に対する興味関心の向上〕 社会の出来事についてできるだけ知ろうとしている者が多いが、新聞やニュース等まつわる雑誌等を読まない学生が過半数を超えている。学生の社会情勢に対する興味関心を広げるため、教育の工夫が求められる。**

[問28](1)時事問題に「関心のある」は50%、「ない」と「どちらでもない」が50%と約半数になっている。(2)次に、相手の気持ちや立場に立って適切な行動ができるか否かについては「あてはまる」と回答した者が89%を示している。(3)また、身近な問題は自分たちで解決すべきだと思う者も87%を示している。(4)さらに将来について今やっていることがある者も73%に上っている。(5)他者の言動に流されないという者が53%、流される者は21%を占めているが、(6)周りの人と協調して物事に取り組むことが出来る者が約88%を占めている。(7)次に、新聞やニュース等まつわる雑誌等をよく読むか否かは「読む」が24%「読まない」が55%と高いが、(8)物事を多角的にとらえようとしている者が70%と高率になっている。(9)次に、自分が就きたいと思う職業が明確にある者が81%、ない者が7%となっている。(10)また、自分の意見をはっきり言うことが出来る者が58%、出来ない者も20%いるが、(11)周りの人と良い関係を維持することが出来る者が85%と高率を占めている。(12)社会の出来事についてできるだけ知ろうとしている者は68%と高く、(13)将来の目標をもっている者は83%と高い。(14・15)自分のことは自分で判断することや自分の感情をコントロールできるとした者も80%程度と高率になっている。(16)なお、10年後の自分の姿を考えたことがある者は50%、ない者が28%。(17)自分の言動に責任を持っている者が83%となっている。

## B「満足度調査」関係

**課題5)〔授業内容の改善〕 授業内容とその難易度、教育方法について不満を持っている学生が少なくない。授業の内容及び方法の改善を図るために、授業アンケートを積極的に実施し、教育改善のPDCAサイクル確立が必要である。**

[問1]入学決定時の気持は満足が77%となっているが、満足していない者も7%存在している。[問2]本学の教育理念の認知については、入学前から知っていた者が66%、入学後が33%となっている。[問3]また、教育目標に対する認知度については、入学前から知っていた者が52%、入学後が44%となっている。[問4]理念や目標をいつ感じるかについては、講義を受けているときが多い。[問5](1)次に、共通教育に対する満足度は満足しているが75%、不満は6%。(2)専門教育について満足している78%、不満は4%となっている。(3)情報教育については63%が満足しているが「どちらともいえない」24%。(4)総合演習(ゼミ)・卒論指導については満足が72%、不満は4%で受講していない者も30%いる。(5)基礎演習については72%が満足、不満は7%存在している。(6)外国語教育については満足が52%、不満が7%となっている。(7)キャリア支援関係では満足が39%、どちらともいえないが25%、受けていない者も32%となっている。(8)次に、資格取得対策講座については「満足している」45%、「どちらともいえない・不満」が26%となっている。(9)クラス担任制については「満足している」77%、「不満」6%となっている。(10)ボランティア活動(単位認定)に対しては「満足」62%、「不満」が8%となっている。[問6]意欲的に取り組んでいる事項としては「専門的な知識を身に付けること」が474件と最も多く、次いで「幅広い教養を身に付けること」390件、「資格取得の対策を行うこと」209件、「実験・実習で学ぶこと」198件となっている。[問7]次に、受講している授業での不満について「授業内容が難しいから」234件、「一方的な授業」194件、「授業内容に興味を持ってない」151件、「指導が十分でない」124件と教員に対する意見が多く、次いで「授業の必要性がわからない」94件、「将来の進路にどのように役立つかわからない」71件、また「施設・設備が充実していない」50件、「不満がない」199件となっている。

**課題 6) [教育の手法や手段などの積極的な変革] 本学の授業に対する充実度は概ね高い。今後さらに学生の充実度の評価を高めるために、教育の手法や手段などを積極的に変革していくことが求められる。**

[問 8] (1) 専門分野の授業については「充実している」81%、「していない」2%。(2) 基礎・教養分野の授業は「充実している」78%、「していない」3%となっている。(3) 演習(ゼミ)・卒論指導での教育の充実では「充実」54%、「どちらともいえない」39%。(4) 外国語教育については「充実」47%、「どちらともいえない」38%、「充実していない」15%。(5) 実験・実習科目に十分な時間が取れているかについては「取れている」66%、「どちらともいえない」26%。(6) 情報リテラシー教育の充実については「している」60%、「どちらともいえない」31%。(7) 選択授業科目の充実については「している」53%、「どちらともいえない」29%。(8) 少人数クラスの授業が多いかについては「そう思う」45%、「どちらともいえない」32%。(9) 高校で学んだこととの結びつきが多いかは「そう思う」40%、「どちらともいえない」29%、「そう思わない」31%とそれぞれおよそ 1/3 となっている。(10) 次に、授業が資格取得に役立つか分かる授業が多いかについては「そう思う」72%、「どちらともいえない」23%。[問 9] (1) 授業の進め方や指導法をよく工夫している教員が多いかについては「そう思う」67%、「どちらともいえない」27%、「そう思わない」6%となっている。(2) また、教育・指導に熱意を持っている教員が多いかについては「そう思う」71%、「どちらともいえない」22%、「そう思わない」7%。(3) 勉学意識を持たせてくれる教員が多いかについては「そう思う」59%、「どちらともいえない」28%、「そう思わない」13%。(4) 学問分野の専門家として優れた教員が多いかについては「そう思う」73%、「そう思わない」4%。(5) 人間的に魅力あり尊敬できる教員が多いかについては「そう思う」59%、「そう思わない」14%。(6) 授業中の質問・意見に適切に対応してくれる教員が多いかについては「そう思う」71%、「どちらともいえない」23%。(7) 授業以外での教員とのコミュニケーションがとりやすいかは「そう思う」67%、「どちらともいえない」23%。(8) 卒業後の進路について適切な助言をしてくれる教員が多いかについては「そう思う」60%、「どちらともいえない」32%となっている。

**課題 7) [学生の身に付けたい能力] どの設問でも現在の状況は「身についた」と回答した人よりも、今後身に付けたいと回答した人の割合が高くなっている。学修成果の可視化を通じて、教育改善につなげる仕組みの構築が重要である。**

[問 10] (1) A 常識にとらわれず新しいアイデアを生み出す力は現在どの程度身に付いたかでは「身についたと思う」60%、「そう思わない」10%、(1) B また、今後どの程度身に付けたいかでは「身につけたい」86%、「どちらともいえない」13%。(2) A 現状を分析し課題を明らかにする力は身についたかでは「そう思う」69%「どちらともいえない」25% (2) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」87%、「どちらともいえない」12%。(3) A 目標達成に必要なプロセスを計画し準備する力が身についたかでは「そう思う」68%、「どちらともいえない」26%、(3) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」が88%、「どちらともいえない」11%。(4) A 目標達成に向かって取り組み続ける力が身についたと思うかでは「そう思う」74%、「どちらともいえない」21%、(4) B 今後身に付けたいと思うかでは「そう思う」88%、「どちらともいえない」11%。(5) A 自分から進んでものごとに取り組みむ力が現在身についたと思うかでは「そう思う」75%、「どちらともいえない」19%、(5) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」89%、「どちらともいえない」10%。(6) A 目標実現のため周囲の人の協力を得る力が現在身についたと思うかでは「そう思う」77%、「どちらともいえない」18%、(6) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」10%。(7) A 周囲の状況に配慮して行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」82%、「どちらともいえない」15%、(7) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」9%。(8) A 社会の規範やルールに従って行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」82%、「どちらともいえない」15%、(8) B 今後身に付けたいと思うかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」10%。(9) A ストレスに対応し自分の感情をコントロールする力が現在身についたと思うかでは「そう思う」70%、「どちらともいえない」21%、(9) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」9%となっている。(10) A 次に、自分の意見を相手にわかりやすく伝える力が身についたと思うかでは「そう思う」68%、「どちらともいえない」21%、(10) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」9%である。(11) A 相手の意見を丁寧に聞き内容を正確に理解する力が身についたと思うかでは「そう思う」79%、「どちらともいえない」17%、(11) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」9%。(12) A 自分と意見の異なる人がなぜそのように考えるかを相手の立場で理解することが身についたと思うかでは「そう思う」79%、「どちらともいえない」16%、(12) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」92%、「どちらともいえない」8%。(13) A 外国語を読み書き聞き話す力が身についたかでは「そう思う」47%、「どちらともいえない」30%、「そう思わない」23%、(13) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」81%、「どちらともいえない」15%。(14) A 社会のために行動する力(ボランティア・NPO 活動など)が身についたと思うかでは「そう思う」68%、「どちらともいえない」24%、(14) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」85%、「どちらともいえない」14%。(15) A 多様な情報を整理し必要な場面で活用する力が付いたかでは「そう思う」67%、「どちらともいえない」27%、(15) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」88%、「どちらともいえない」11%。(16) A コンピューターを使って文書や表資料などを作成する力が付いたと思うかでは「そう思う」75%、「どちらともいえない」19%、(16) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」86%、「どちらともいえない」11%。(17) A 社会が直面する問題を理解する力が身に付いたと思うかでは「そう思う」68%、「どちらともいえない」24%、(17) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」85%、「どちらともいえない」13%。(18) A 物事を数式や図表を使って表現・分析する力が付いたと思うかでは「そう思う」56%、「どちらともいえない」27%、「思わない」17%、(18) B 今後身に付けたいかでは「そう思う」81%、「どちらともいえない」15%。(19) A 卒

業後も学び続ける力が付いたと思うかでは「そう思う」66%、「どちらともいえない」26%、(19)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」85%、「どちらともいえない」13%。(20)A 自国や他国の文化・社会について理解し尊重する態度が身についたと思うかでは「そう思う」63%、「どちらともいえない」27%、(20)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」82%、「どちらともいえない」15%。(21)A 物事を客観的・多面的にとらえる力が身に付いたかでは「そう思う」73%、「どちらともいえない」が22%、(21)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」90%、「どちらともいえない」9%となっている。

## C 「本学への総合満足度」

**課題 8) 【本学への総合満足度】** 現在の本学への総合満足度が入学決定時よりも下がっている点と、本学に満足をしている学生の中にも、後輩に入学を勧めたいと回答していない学生がおり、原因の究明と対策を早急に図る必要がある。

[問 11] 本学へ入学してよかったと思うかについては「よかった」26%、「どちらかといえばよかった」38%、「どちらともいえない」24%、「どちらかといえばよくなかった」8%、「よくなかった」4%となっている。満足度については前年度と同様の傾向にある。

[問 12] 次に、所属している学科に満足しているかについては「満足」31%、「どちらかといえば満足」41%、「どちらともいえない」20%、「どちらかといえば不満」6%、「不満」2%である。

[問 13] 次に、本学に興味を持っている後輩に本学の入学を勧めたいかについては「勧めたい」15%、「どちらかと言えば勧めたい」27%、「どちらともいえない」37%、「どちらかといえば勧めたくない」11%、「勧めたくない」10%となっている。前年度と同様の傾向にある。

## Ⅲ 提言 伝統ある本学のさらなる発展に向けた展望

全 43 問すべての調査結果は、集計値およびグラフを参照いただきたい。  
この結果をもとに、具体的な提言として以下の 5 つにまとめる。

### (1) カリキュラム・マネジメントの確立に向けた取り組み

教育の質を高めることを目的に、三つの方針（「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」）を踏まえ、教育課程（カリキュラム）の編成、実施、評価、改善という PDCA サイクルを組織的・計画的に進めていくカリキュラム・マネジメントの確立が求められる。そのため、教科横断的な視点で各教科の相互関係を捉え、カリキュラムの編成を行うことが重要である。さらに教育内容の質向上に向けて、アンケート調査や各種データに基づいた PDCA サイクルの確立、学内外の人的・物的資源を効果的に活用した教育活動を積極的に展開していくことが重要である。

### (2) エンロールメント・マネジメントの積極的な活用

学生の入学前から在学中、卒業後までを一貫して、総合的・組織的に学生支援するエンロールメント・マネジメントの積極的な活用が求められる。そのためには、実施体制が全学的な視点から編成され、PDCA が確立し、適切に運営される必要がある。さらに入学前から卒業後までの多様なデータを包括的に収集・分析し、広報活動や教学改革・改善などの計画立案と実行管理を効果的に推進される必要がある。学生一人一人の個別に対応した総合的な学生支援につなげることで、学生・保護者の満足度を高めていくことが求められる。

### (3) 学修成果の可視化と積極的な活用の必要性

個別学生がどういう能力が育ったか（学修成果）を測る取り組みが必要である。そのためには、成績評価などの直接評価だけでなく、学生調査などの間接評価も組み合わせ、測定することが求められる。さらに測定した学修成果を学生へフィードバックし、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の参考資料としての活用、授業・教育改善への積極的な活用が求められる。

#### (4) 学生の学習意欲の向上のための取り組み

学生が目的意識を高め、主体的に学び続ける習慣を身につけるために、初年次からの継続的な指導が必要になってくる。サービス・ラーニング、実習など、体験を通じた実践的な学びは、学生の学習モチベーションを高めるうえで有効である。こうした体験型の教育プログラムの内容をさらに充実させていくことが求められる。さらに学習意欲についての全体の傾向と個別学生の実態を把握するために、アンケートを用いて調査することも重要である。

#### (5) 課外活動の推進のための取り組み

今年度もサークル・委員会活動、ボランティア活動などの課外活動について、まったく活動していない者が過半数を超えている。課外活動は、学生への教育効果が非常に高く、また学生の大学生活の充実にも不可欠である。そのため課外活動を組織的に支援し、充実させていくことが重要である。具体的には、オリエンテーションなどで課外活動への参加を推奨したり、活動をホームページで積極的に広報したり、発表活動などを支援することなどが有効である。